

今「fuf」では

シン・ゴジラよりも「レク」がアツい!?

# フリーターユニオン 福岡の通信誌 その29

(fuf))))))レクレクリエーション特集

# ションが激アツの予感！！

第1回 fufuカフェと、今後のレクリエーション

今回、レクリエーションを開催出来た事にまず感謝しています。

今回の fufu カフェは大変意義のあるもので、私自身不安も多いにありました

しかし、参加して下さった方々が楽しく、そして普段出来ない様な会話をする。

知らなかった部分を知り、受け入れ、互いを認め合うというきっかけになったのではないかと思います。

私が、この組合の会計、レクリエーション担当になり公言したように、今年一年は一人一人が密に関わり尚且つ楽しいレクリエーションを…

毎月開催目標…これは実行して行きたいと思えます。

この組合は、色々な年齢と個性が生存しあいながら成長している場所なのだと思います。

それらを更に、自由に個性豊かに発展させていける場所がレクリエーションであって欲しいと願っています。

くだらない事も大袈裟にやっつけていけるそんなレクリエーションを皆様と一緒にやっけて行けたらいいと、そんなふうに思っています。

(田村 幸子)

\* \* \*

今回私が組合に入ってから初めてのレクリエーション参加で思ったこと、感じたことは

レクリエーションを通じて色々な人と仲良くなれて本当に楽しくて嬉しいということです。

組合に入ってから様々な人と知り合うことができ、今まで体験したことのないことを体験させてもらっているなと思います。

これは実生活でも役に立てる気がします。

正直難しい話にはついていけない時がありますが、いっかが理解できるようになりたいので勉強になります。

そしてレクリエーションでは、田村さんにお料理を教えて頂いて、美味しい料理を作ることができて皆さんと一緒に他愛もない話をしながら時間が過ぎていくことが私にとってはとても楽しく、嬉しい一時になっています。

これからレクリエーションを継続させていきたいと思います。組合について知っていただけたらいいなと思います。

(エルモ)

# 今秋は f u f のレクリエー

## レクリエーション始めてみて

組合大会が終わってから新たにレクリエーションを再開した。前は、レクリエーションの企画はあったがあまりやらずに定例会議と団体交渉で終わってしまっただ。

今回は田村さんから毎月のレクリエーションをやろうと提案があったので、うれしい反面前回レクリエーションがなかっただけに人が集まるか心配でした。

レクリエーションを再開してみますか？ カフェみたいにお菓子やジュースなどをアレンジしてメニューを準備したり、ケーキなどを焼いたりしました。今年からのレクリエーションは組合としての在り方や今後について話し合いました。一回目のレクリエーションは人数が少ない中でも集まっていたという議論で盛り上がったと思います。

一回目のレクリエーションは会場の影響があり、大人数で二回目のレクリエーションより集まりが悪いかなと感じましたが、自分も派遣の仕事などから予定時間から遅れての参加でした。

事務所に入ってみたら前回より参加者が増えて驚きました。二回目のレクリエーションは鍋などを食べて、飾り付けと色紙の寄せ書きをしました。

普段なかなか来れない人も今回のレクリエーションに参加してみてもいいかなと後で後悔しない組合活動の一環として参加する意義があったのではないかと感じました。

またまた始まりましたが、組合活動としての定例会議だけでなくいろいろなイメージが残っています。

まうこともあり、今回はそのイメージからの脱却を許りたいと考えてからの企画だったので参加してみてもいいかなと。

今後毎月レクリエーションがありますが、定例会議とは別に誰でも参加できるレクリエーションに出ればと考えています。

(見谷元)

## レクリエーションへの参加を促して思ったこと

私が今回参加して感じたこと。

①まず企画や設置の段階から関わらなかつたことへの後悔。

②そもそもお聞きという段になってようやく進み始めた他の参加者の皆さんと本音で話し合えたことがなかなか充実感。

単に「お客様」で終始しなかつただけよかったことも考えたい気持ちもありますが、やはり次回は企画・運営にも皆さんが参加してほしいです。

報告は「こ」まで、以下は考えたことを書いてみます。

レクリエーションの企画・運営は、おそろしく究極的には自分をきめんな人たちの意見や要望の間の調整が必要なのは言うまでもありません。それがすんなりいけいいですが、ときには譲り合ひが必要です。

では我儘や対立その他の駆け引きもあつていい。その話し合いの参加者全員が納得できる結論を得るためには理性や忍耐、それにユーモアなどを必要とする。味での礼儀、そしてひとたび結論が出たらそれに沿って行動する実行力と臨機応変の機転はその参加者にも必要なのはです。たぐえ当初自分にとっては不本意な結論に達しても、いざ始めてみたら意外に面白いかもしれない。

その過程はまさに政治、とりわけ住民自治に通ずるものがあると思います。あるいはもしかしたら恋愛にもそうした側面はあつたりしますかね。」「自治」の定義が既に自分の利益が侵害された場合には非暴力的手段で戦うことを含むなら、職場闘争もさえないレクリエーションの延長線上にあると言えそうな気がします。

ところで日本語でレクリエーションという言葉は、何か特定の目標を共有する就業者仲間たちが普段とは別の活動をして楽しむという意味で使われることがほとんどだと思えます。でも、英語では recreation は、「楽しみ」「再び」「神が(創造する、生み出す)」というのが元の意味のようです。意味で「生まれ変わらせる」としてみましよう。さて何を生まれ変わらせるかといえは、多分まず自分を、そして最終的にはその仲間たちが各自自分を生まれ変わらせる「こと」でその集団そのものが生まれ変わらされる「こと」を維持することまでも意味してらそうです。

ですから皆さん、全く月並みな結論ですみませんが、レクリエーションのために集まったら大いに楽しましよう。

(つひそのひまわり)

# 本当に必要で強い労働組合をめざす

## だから誰でも疲れたらきんしゃい。困ったらおいで！

「リトル東京とまで言えるかわからないがそんな場所に似つかわしくなく、福岡市中央区と真ん中にfufu事務所は六〇平米ほどのワンフロアがいつも雑然としてそこにある。組合員は雑然さなど気にせず、それを楽しみ居心地のよさとしてゐる。(私は掃除したいけど)」

労働生存組合と名乗って暗中模索で駆け抜けてきたこの十年、ほんっとにさまざまなことをチャレンジしてきたし、さまざまな人が通り抜けてきた。そんな通り過ぎていったものたちが、fufuに着きつけられるようにやってきて自らの求める生き方を試行錯誤して、遠ざかってみたり居ついてみたり、また戻ってきたり。労働組合運動と一言で言っても、その切断された歴史において、今の二〇代三〇代にはメディアの情報はささるっていないし、そのイメージすらない。

今回十年経でのfufuが今また「リレーション」「たむけ」をまたま掲げて企画。集まって、食入って、しゃべって

「うーん、このあたり前のこと」の取り組みが、ある意味新鮮で初めてとも言える。イベント後の交流会などで飲み食いしておしゃべりするそれは違うものだ。

「これを」一年通してやりとおきたいと買って出てくれたのは、もう二年前になるか、介護事業所でバツハラの解雇に追いやられて、回交でも解決せず、とうとう労働委員会の救済申立ての場で完全勝利的解決を勝ち取った田村さんだ。彼女は絶対「泣き寝入り」しないと、会社の前で「うまきをしたいと主張した。そんな田村さんが双子の子供やつれあいまでまきこんでfufuにはまってしまうのだ。

彼女の闘いにつきあいながら「ああ、闘うってほんと、当事者はほんといなあ」としみじみ思いつつやってきた私だが、本能的に「闘う」「闘う」はじんとする。職場でいかにストライキとうまくつきあうかといった対処療法しかなのが現実だ。そんなとき、まず

疲れた心と体を癒そうーというこれまで「く当たり前のこと」だ。そしてそれを一人じゃない、労働組合という場所です。第2弾は自分のバイブルとするような(この本を紹介する)というテーマだったけど、そのときも雑然としたなかで、それぞれの思想哲学の根ざすところが垣間見えるものになっていた。

意味がなければ生きていけない、これもまた当たり前のこと。小難しいことではなく、人が生きていく最低限度の死守すべきことなんだと、これを労働生存組合運動としてちまちま綿々やっていると、そんな力が一人ひとりに少しずつ蓄えられたら「われわれは闘う！」そしてそれは案外と簡単だから、非のある会社や経営者に対して労働組合が勝利するのは「それまた」当たり前のこと「だからーわれわれは、なるべく闘い、樂觀的に勝利するまでぼびびびらうよ。

(たけちりま)

# 水上龍一先生今週のエッセイ

## 生シャツと焼ずぼん

まず賃金労働者にとっての「理想の働き方」というものを考えてみる。「ここで」やりがい「とが」「生きがい」とが「自己実現」とか「社会貢献」とかの夾雑物を取り除いてみると結局は、「出来るだけ高い賃金」を「出来るだけ負担の少ない働き方で」「手にしたい」というのが「コアだ」と思う。「つまり」「ソクしてカネだけいっぱいもらいたい」ということだ。カネは多ければ多いほどうれしいしシゴトは少なければ少ないほど望ましい。なんなら働かないでカネだけもらえれば一番いい。

次に雇用主にとっての「理想の働かせ方」を考えてみる。ここでも「社員は私の家族だから」「的なシヨクを削除してみると」「出来るだけ安い人件費で」「会社が負担を負わない形態で」「働かせたいというのが骨子だろう。てゆーか本当は給料なんか一円も払いたくないし、有給とか手当とか意味わかんねーし、労働者は百パーセント会社の都合だけで働くべきだし、労災なんてそんなの自己責任でしよっ

以上はいずれもみもみだもない極論だが、

あえて極端な極論に振り切って考えてみることで物事の本質がシンプルな形で見えてくることがあると思う。この場合も大体こんなもんだと思う。

さて「こ」では注目すべきはこの両者の利害が全くシシクロすることなくむしろ根源的に対立しているという点だ。なにしろ働かす「カネがほしい」と思っている奴とカネを払わずに働かせたいと思っている奴とが同舟してひとつの組織を運営しているわけで、これはかなり、無理がある。このそもそものがアンビバレントな関係性こそが「労使関係」というものの本質であり実態だが、しかし「こ」で両者がインタラクティブなスタンスで話し合い、双方が納得できるウィン・ウィンな善地点を発見することが出来れば何も問題は無いことになる。

しかしなぜだかそうはならない。本来対等であるべき両者の現実的な力関係の格差によって、労働者の権利意識にはリミッターが、雇用主のそれにはブースターがかかってしまっからだ。だからこの関係性の力学において

は放っておくと雇用主が限りなく「王様」に近づいていき、労働者が限りなく「奴隷」に近づいていくというバクトルをそもそも構造的に内包しているということになる。

「こ」で「国家」という本物の王様が登場し「この関係を調整しようとする。この場合ただでさえ立場の強い雇用主の「権利」には抑制的に、労働者の権利には保護的にアプローチするべきだが、関係各法も概ねそのような値加減で（たぶん）作られているし、それを監督するための専門機関までがある。だからこれらがシステムティックに機能してさえいればこれまた何の問題もないはずだ。

以下はいうまでもないだろう。結局、現状では労働者自身が自力で雇用主の経営暴力に抗っていくしかない。もちろん一人では無理なので同じ立場のもの同士が連携することになる。そして、この受け皿になりうるのは今のところ「インディーズ系の労働組合」しかない。だから労働組合なんかなくても普通に働ける世の中ならそれが一番いいのだ。

# 福岡庭園作業センター紛争を終えて

## 武田啓詩

福岡庭園作業センターに動いていた組合員は、二〇一五年八月に突然解雇を言い渡された。八月份の未払賃金を求めて、社長に対して要求したところ、社長から報復的な損害賠償請求書(三〇万円払え等)が届いた。非常に困惑し、労基署に相談し、二度に渡る実地訪問を受けたが、埒が明かなかったため、フリーターユニオンへ加入することとなった。

組合の要求は、本人へ直接交渉しないこと、損害賠償請求をしないこと、八月份の賃金の支払をすることであった。電話にて内容を簡潔に伝え、改めて書面でも請求書を出したところ、要求書の受取拒否つまり、組合とは交渉はしないという意思表示をしたのだった。

このようになると直球でわかりやすい不当労働行為であるが、韓便申し立ては相手の欠陥希薄により不調に終わり、やむなく救済申立という流れとなった。しかし、明らかに不当労働行為に対しても労働委員会が即座に命令を出すことはせず、是が非でも和解を勧めたがる労働委員会の姿勢には、憤りを隠せなかった。

労働委員会とは、労働者を救済する機関であるにもかかわらず、無知な使用者側に対して、全く強硬な姿勢は取らない。自分たちが詰められているのにも気づいていない。こんな理不尽な世の中ばかりきっているが、それでも諦めずに対応し続けなければならぬ。そんなこんなで第三回調査六月二三日、勝利的和解によって解決した。

その後、「この紛争に関して総括をしたのだが、内

容としては、①労働委員会は実質的な意味で中立ではないこと、②完璧にシナリオを書き上げてそれ通りに持っていくこと、③組合員の感想、などを話し合った。

①に関して具体的に述べる。今回、相手方は弁護士を立てなかったため、答弁書などを社長本人が書いてきたのだが、答弁書の内容は素人の書き上げたそのまま「今までに幾度と無く同じ話をしてきました。今更にご迷惑を入れることは何の意味もありません。私にはわかりません・・・。」という書き出しから始まった。驚くのは、労働委員会は一応それで答弁書を受け取ったのである。労働委員会の調査は、裁判とまではいかずとも、割と厳格に行われるものでこちらの主張に対しての反論という形で進められるのが一般的で、例えば「(A)に関しては何も認めず」「などから始まるものが多い中、普通の作文のような内容の中で進められるとは思ってもみなかった。最終的には「会社に属して・・・。」というふうなことを委員長が突然言い出したりと・・・。」日頃から労働組合は世間の風当たりが強いことは重々承知しているものの、今回は改めて労働は対等ではないというところを認識するところであった。

②に関しては、「これは交渉の経験、能力の問題であり、これは私自身の反省とどういふかで・・・。」知議は交渉には殆ど役に立たない。事前の準備の段階で、全てが決まるといふところを争うことができた。

③に関しては以下のとおり。「案件が終わって安心。心の中もやすやすとすっきりしたんで、本来の自

分に戻りつつある。仕事も決まったのでひと安心している。あんな社長もどけ働くのは嫌だったんで、闘うのは嫌だったけど、あの社長を屈服させることはできないけど、あの社長にも一生考えさせられる案件だったと思います。「(S)組合員の感想」初めて紛争を当事者として経験した人は割と事件が終わったらすっきりするといふのは共通している。

また、ある組合員から大事な言葉が出た「駆け込みの、紛争で来た人は、紛争が終わったら、(組合とは関係ない)また元の生活に戻る。それは根本的な解決ではない。組合は金銭解決とかそういうものが全てではなくて、残らないで紛争が終わったら自分の生活に戻っちゃう人、そういう人でうまく行けばいいけど、多分うまくいかないと思う。ところが根本的な問題なのかというのを理解する必要がある。」

紛争を通じて、各個人、自分自身で、学び、考え行動することが重要であることを、何度も何度も確認する中で、私はこの繰り返しが大事だと思っ

# ぼくとしてのfufフリーターユニオン福岡の存在意義 阿部隆人

ML(メーリングリスト)文体的変化と共に書かせていただきます。

三年前前にfufの花見があり、ぼくが悩みありメールを初めてすると、花見の予定をすらすらしてぼくを花見に招き入れてくださったのでした。その前に福岡共産党が福岡で花見をする、というので電話すると「組合員だけ・・・」とおぼろげに申し訳なさそうに言われていたのです。

なかなか得たいの知れぬ若者一人をそう扱ってくれる組織はないし、恩義に感じております。その行動がじつは、今自身組織を持ったとしてできるか・・・となると、受け入れるか考えなされると思うのです。花見の予定をすらすらして一人の若者を招き入れるという行動は、なかなかできない。その貴重性を今に書きます。

言わば学校に、社会に、職場に、そういった大人から若者へのコミュニケーションがあるだろうか、とも思っています。

元組合員の〇くんがMLでのやりとり、実際にあったのゆとりは、fufに通ったからこそ、メッセージを交わしあったからこゝろで得られた貴重な体験でした。

〇くんを真面目で、〇くんは奔放な感じがあり、相反するところがあって、二人の間に反発はあつてましたね。

それでも苦しい中、差別で傷を癒やしようという方向にいかず真面目さを発揮していた〇くん、真剣に悩んでMLを利用してしまつた〇くん、ぼくにはキャラクター的に双方とても魅力的に見えていました。

今も余裕はない社会ですが、余裕のない中、MLなどで皆それぞれの意見を表明はしてましたね。それをただ、無駄だった。とは誰しも思わないはず。コミュニケーションの意義を思います。

〇くん「テロリズムに賛成」と言つて、それを言える場所がどこにあるでしょうか。ネットで匿名で書いて、「言つてやった」とスツキリするのでしょうか。ユニオンは、fufは、そういう意見も言えはする、貴重な場所です。実際にテロに走るわけではないし、しかし、それを聞いてもらえる人がいる、話せる場所があるというのはどれだけ貴重なことか。今だ世間の人といえは、そういう事を言わばいながらただでしよう。Eさん真面目で、実直すぎるとも言える人で、そういう方が低賃金でギリギリの生活・・・というのにも社会の理不尽を感じるわけです。

小さくとも居場所があり、役割があつてそれを充実に変えられる・・・貴重なことだと思います。

SEALDsの若者世代、海中の中にあつました。SEALDsが「ヤマタ」に闘うのは、勝手に好きなのりでできる風潮も日本には必要なのです。それが政治をやると公安のマークにあつたのだと、前時代的で厚く厚く呆れてしまいます。

差別意識にしても日本人は東南アジアの人を見下しているし、潜在的に中韓の人への差別意識が高い。その癖在日韓国人の人のコミュニケーションが全然無いのに、差別に走つたりしている。

全く知らずして・・・しかも年長者に多い。アジア圏も必要なのに、鉄道の翻訳文字が差別意識から韓国語中国語撤廃・・・のような、だいたいそういう感覚の出来事もあつたようです。運輸の二重国籍を大犯罪のように叩いたり、グローバル

じゃなく韓国根性なわけですね。日本に多く占めている空気だと思えます。

不満の処理を誤まつた差別団体であつたり中核派・・・的な団体にもし行つていけば、fufでの体験はできなかったかな・・・と思えます。

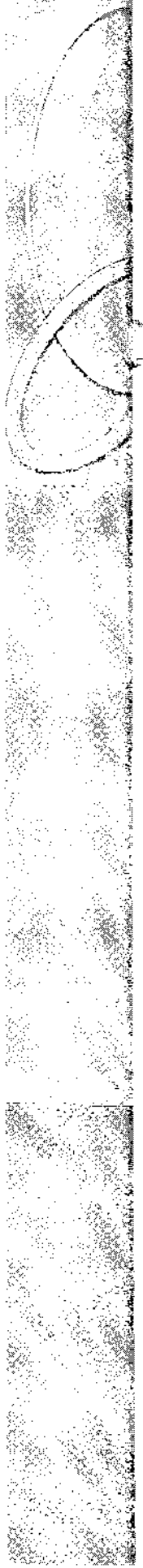
fufの問題点があるならば、執行の人が欠ければ組織として成り立たなくなるところです。そこに執行することを案じめる人がまた入つたりすれば・・・なのですが。

ぼくはMLでも勝手ながらモチベーターとして役割を担いたいと思つていました。

大名の若者よくある消費側の人達とだけ思つて敵視していた時もあり、労働組合のような組織とは無縁に見えていたましたが、飲食店のチラシ配りなどを頑張つてする若者もいると冷静にやっつ、見ることができるようになりました。これも「花見」でした。行動すればあそこになつてくれる人達は沢山いると思えます。

fuf、人が来ては去り、来ては去り、というところでもあると思えます。皆何かを争ひ得て、変化して、去る。大事なことがあり伝えられることは、「人とのコミュニケーションで100%完全に精神を持ち直した」と言う人はなかなかないですけど、「コミュニケーション全く無きところから人の精神が持ち直すことなし」、とは断言できます。

やはり、コミュニケーションなのです。でも日本、ユニオンのパンフを置いてもらえなかつたり、ね、まだまだですね。



## ◆通信誌購読料及び活動へのカンパのお願い◆

- 年間の通信誌費とともに、fufの活動に賛同のカンパなどしていただけたら、ありがたいです。通信への感想なども是非お願いします。楽しみにお待ちしております。

### ◆組合員の著書◆

乗松優『ボクシングと大東亜～  
東洋選手権と戦後アジア外交』  
(忘羊社、2016年) 本体2200円

「この本を片手に酒を飲んで議論したら、話が止まらなくなりそう」(山内昌之・歴史学者)  
文藝春秋鼎談書評より

- 通信費： 年間一〇1000円

- 振込口座

名称： フリーターユニオン福岡

口座番号： 01710-4-92028

- 有期雇用でも、正規社員でも、ニートでもヒキコモリでも組合員になれます。組合費はだれでも月2000円。

- 働くこと、働いていきること悩んでいる人、いつでもご連絡ください。

- 第2、第4金曜日は、午後7時から定例会議です。お気軽にお立ち寄りください。

- 電話、メール、いつでも相談や加入のことなど受けつけています。電話番号やメールアドレスなど、より詳しい情報については、フリーターユニオン福岡(fuf)のブログやホームページをご覧ください。

blog: <http://fufukuoka.blog.so-net.ne.jp/>

HP: <http://fufukuoka.web.fc2.com/>

奥付：2016年10月8日発行